慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	西脇順三郎アーカイヴ解説と研究会報告
Sub Title	Introduction to Nishiwaki Junzaburo archive/report for research group on Nishiwaki
Author	橋本, まゆ(ハシモト, マユ)
Publisher	慶應義塾大学アート・ センター
Publication year	2013
Jtitle	Booklet Vol.21, (2013.) ,p.134- 136
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	Junzaburo Nishiwaki as illuminant 10
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11893297-00000021-0134

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

西脇順三郎アーカイヴ解説と研究会報告

橋本　まゆ

西脇順三郎アーカイヴ

慶應義塾大学アート・センターは平成22年度に西脇研究の第一人者である明治学院大学名誉教授・新倉俊一氏より、西脇関連資料約800点をご寄贈いただいた。およそ１年半をかけて資料の物理的整理とリスト作成に取り組み、西脇の118回目の誕生日にあたる平成24年１月20日に西脇順三郎アーカイヴを開設した。現在、週１日の開室日を設けて学内外の閲覧者に対応している。

西脇アーカイヴは詩稿、訳詩稿、散文原稿などの貴重な直筆原稿、初版本を含む国内外で出版された西脇の著作・全集・選集、さらに二次文献として、西脇ならびに日本の近代詩に関する広範な研究書から構成される。詩作の臨場感あふれる直筆原稿に加えて、西脇へ影響を与えたT.S.エリオットやエズラ・パウンド、ジョン・コリアといった海外の詩人・作家から、西脇の影響を受けた後続の詩人までを対象とする関連資料は、西脇の詩作の原点を突きとめ、さらにその影響を日本近代詩の流れにおいてとらえる新倉氏の長年にわたる探求の足跡にほかならない。この意味において、西脇アーカイヴとは優れた研究者アーカイヴの好例であると言えよう。

資料の内訳は以下のとおりである。

—直筆資料
　詩稿：27件（未発表を含む）
　訳詩原稿：８件
　散文原稿：32件
　詩草稿ノート：４点
　その他ノート：74点
—絵画：５点
—著作・共著（初版本含む）：38点
—全集・選集：50点

—二次文献（国内外）：約500点
—音声テープ、写真
—その他

上記資料の中でもとりわけ78点を数える直筆ノートは、『旅人かへらず』『近代の寓話』といった代表作の詩草稿や晩年に力を注いだ「漢語ギリシア語研究ノート」を含み、西脇アーカイヴの核心を成す。一例として、T.S.エリオットの『荒地』訳稿ノートと『近代の寓話』詩稿ノートを並置するならば、『荒地』の訳稿が『近代の寓話』の冒頭へと接続する西脇の思考の流跡が浮かび上がってくる。翻訳と詩作が相補的に機能する、西脇ならではのパロディを取り入れた詩篇への制作論的アプローチとして、こうした資料の意義は極めて大きい。

資料の受贈以来、これまでに２度にわたって展覧会に出品した。「三田文学 創刊100年展」（平成22年10月25日-11月７日 慶應義塾図書館旧館大会議室）における特設コーナー「西脇順三郎と若き才能たち」と、西脇アーカイヴ開設を記念し開催された新倉氏監修による展覧会「西脇順三郎——大いなる伝統」（平成24年１月10日-２月24日 慶應義塾大学アート・スペース）である。両展覧会において、詩稿、訳稿、ノート、絵画、初版本などの主要な資料が出展され、西脇資料およびアーカイヴの存在を広く発信する好機となった。

今後は他機関・個人の西脇資料の所蔵状況に関する情報を収集し、当アーカイヴの資料とあわせた「西脇順三郎資料」の全容の把握に努めたい。

西脇研究会

西脇アーカイヴ開設を受けて、およそ２ヶ月に１度の頻度で「西脇研究会」を開催している。文学研究者、詩人、翻訳家といった多彩な顔ぶれが集まり、西脇の詩篇をめぐって独創的な意見が交わされている。各回一人の進行役を決め、進行役が設定したテーマのもとに諸篇を読み進めていく。平成24年10月現在、計５回の研究会が行われた。

第１回（平成24年３月26日）
進行役：杉本徹氏
テーマ：『近代の寓話』
内容：『旅人かへらず』草稿ノートからの関連／エリオットのパロディの要素／成立と同時代評／フローラの身体性／すべての音が消えたのちの音

第２回（平成24年５月７日）
進行役：杉本徹氏
テーマ：フローラの身体性（前史）——「修辞のゆさぶり」から「時間のゆさぶり」へ

内容：『超現実主義詩論』／萩原朔太郎との接近／フローラのあらわれ方（『Ambarvalia』『旅人かへらず』『近代の寓話』）

第３回（平成24年７月２日）
進行役：杉本徹氏
テーマ：出発点としての「萩原朔太郎」という問題
内容：西脇（モダニズム）と萩原（ロマン主義的自然主義）の出会い／フランス自然主義文壇でのフローベールの達成と、蒲原有明との類似／西脇「フローベールの世界」から／エアポケット、としての詩

第４回（平成24年９月10日）
進行役：八木幹夫氏
テーマ：西脇順三郎の永遠――詩集『えてるにたす』の詩篇「菜園の妖術」にそって
内容：「触覚の人ベンヤミン」／ベンヤミンが提唱した芸術鑑賞態度「気散じ」「くつろぎ」／西脇詩――緊張をほぐす手法「くつろぎ」／詩の背後にある、教養から自由になること／詩集『えてるにたす』／永遠という概念の捉え方／『えてるにたす』に出てくる「永遠」の物質性と空間性

第５回（平成24年10月15日）
進行役：八木幹夫氏
テーマ：西脇順三郎の「永遠」（その２）
内容：存在の反射のゆらめき／「永遠」の持つ風土性と女性性

（はしもと　まゆ・兼任所員、慶應義塾大学文学部講師［非常勤］／西脇順三郎アーカイヴ）